

有害プランクトン情報

(令和3年度 - No. 10)

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所・生産技術研究室

千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	1月 第1回	内湾 (8地点) 1/6	内房 (7地点) 1/5
		1月 第2回	内湾 (8地点) 1/17	内房 (7地点) 1/18

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
 - ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
 - ・ 1/6 内湾の広い範囲に分布し、最高密度は盤洲北部の0.2細胞/mL
 - ・ 1/17 内湾北部に分布し、最高密度は船橋沖の0.1細胞/mL
 - ディノフィシス ロツンダータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
 - ・ 1/5 船橋沖のみに分布し、0.1細胞/mL
 - ・ 1/18 アクアライン北部～盤洲北部に分布し、密度はいずれも0.05細胞/mL

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
 - ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

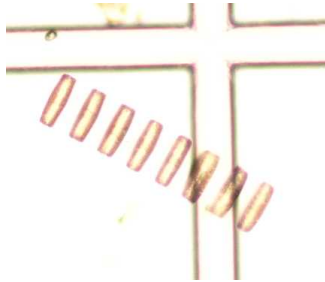
- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - ディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんが、注視が必要です。
 - ・ 1/5 第2海ほ沖で、0.05細胞/mL

貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

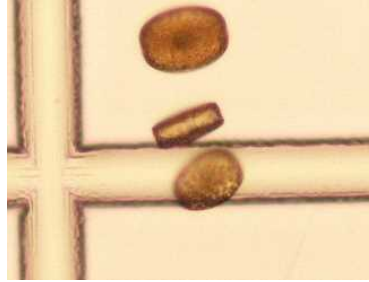
(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたフランクtonの優占種

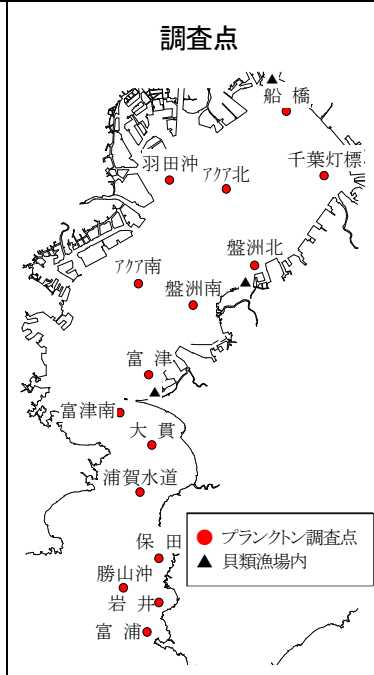
1/5,1/6	内湾・内房	珪藻タラシオシラ属, キートセロス属, コシノディスクス属, など
1/17,18	内湾・内房	珪藻タラシオシラ属, キートセロス属, コシノディスクス属,, リゾソレニア属など



タラシオシラ属
(1/6 千葉沖)



コシノディスクス属,
(1/6 千葉沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp